

富山県技術士会 第4回講演会の報告

はじめに

富山県技術士会では、平成17年度の活動として、6月の定時総会および第3回講演会に続き、11月に第4回講演会および懇話会を開催しました。講演会の内容および懇話会の様子などについて、簡単に報告させていただきます。

第4回講演会

第4回講演会は、平成17年11月26日(土)15:00~18:00に、富山県ホテル11階会議室において開催しました。参加者は、講師を含めて41名です。

森田代表幹事の「開会の挨拶」の後、下記に示すタイトルで、3名の講師の方に講演をして頂きました。

・日本技術士会 最近の概要

日本技術士会北陸支部副支部長 津田 直昭

・未来予測のマネジメント

富山大学経済学部教授 清家 彰敏

・化学物質の基礎 - 石綿その他

富山産業保健推進センター所長 加須屋 實

最初の津田副支部長の講演は、技術士の現状と今後進むべき方向について、日本技術士会における活動状況を中心にお話をされました。技術士としてのあるべき姿(専門性、応用能力、人間性) 資質の維持・向上(CPDの実施等)などについて、数日前に発覚した建築士による耐震強度偽装問題を例に上げて、タイムリーな話をして頂きました。また、代議員制度の検討や支部、府県単位の地位組織のあり方、会員の拡大と技術士会の活性化などについても、私見を交えながら報告がありました。富山県技術士会としても、本部や支部の動向を見ながら協力して行きたいと思えます。

2番目の清家先生の講演は、技術を中心とする未来予測に関するお話です。過去に実施した未来予測から、予測テーマの1/2が意味がなくなったが、これを除くと比較的当たっているとのこと。また、今後は、コンピュータを使った予測が増加し、バイオ産業が有力であると予測されています。この予測は、科学地図、技術地図=マップを用いたもので、今後の経営には、勝ち馬に乗り続けられる戦略=マップ・プル型の技術経営が必要であるとの示唆がありました。経済学者である清家先生が、新しい技術を中心に未来予測をされている点が新鮮であり、我々の技術が未来に繋がっているのだということを再認識しました。

最後の加須屋先生の講演は、増え続ける化学物質による健康障害の予防について、医者としてまた指導、啓蒙する立場からのお話でした。化学物質は、日々新しいものが作り出されており、先生でも把握しきれないというのが実情のようです。一般的な有機溶剤による事故が未だにあり、トルエンやキシレンなどを使用している職場では十分な注意が必要であることを認識しました。また、今話題の石綿や粉じんだけでなく、細かな刺激性の物質であれば、同じような健康被害が発生することを示唆して頂きました。我々にとって健康が一番大切であり、技術だけでなく職場環境などにも十分注意をしたいと思えます。

先生方に対しては、それぞれ活発な質疑応答があり、気が付くと予定時間となっていました。最後に、境事業委員長の「閉会の挨拶」があり、無事に講演会を終了することができました。

講演会後は、会場を2階のレストランへ移して、講師の先生方を交えて懇話会を開催しました。日頃接することの少ない先生方の本音が聞けて、大変有意義であったと思えます。



第4回講演会の状況

まとめ

講演会は、様々な分野の先生方から新鮮で興味深い話を聞くことができる良い機会であり、富山県技術士会における大切な活動となっています。講師の手配や機材の準備にご苦労されている事業委員会や関係者の皆さんに感謝すると共に、今後ともご協力を宜しくお願い致します。

(富山 竹内勝信)